

授業時数は計画段階で下回らなければよい

食材産地は検収簿に記録で、OK!



編集・発行/
さいたま市
教職員組合
〒330-0843
さいたま市大宮区
吉敷町4-93-5
大宮教育会館2F
TEL 641-6763
FAX 648-3567
2011.5.12(木)
No.182

4月27日、市教組と教育委員会との交渉で、震災被害のあった栄小に県費加配教員を配置することを確認しました。夏季休業日が7月20日になったことに関連し、授業時数は計画段階で下回っていないことを確認しました。

土曜授業は強要ではない

授業日数を205日以上にするとして市教委が、1学期の終業日を例年どおりにしたことは、市教組としても歓迎するところです。しかし、夏休みを昨年同様にしたことで負担増にははいけません。



栄小の学習状況調査は中止を

さいたま市では、小5と中2の学習状況調査を4月19日に実施しました。文科省は全国学習を7月いっぱいまで実施しないことを通知しています。さいたま市も、児童の心のケアを考え、市独自の学習状況調査を中止すべきだ、と要請しました。

担当大きいことを指摘し、食材産地は「検収簿の報告」で対応すればよいことを確認しました。

市教委は「さいたま市は地震と関係があまりなかったので実施した」と述べました。しかし、栄小学校は校舎が損壊し、他の2校に分散して授業を実施しています。被災した学校は調査を回避すべきでした。栄小学校の児童にも学習状況調査を行ったことは、配慮がないことを指摘しました。

さいがに職員の事務机もないので、採点と集計は市教委が行っています。が、当然のことです。

食材産地の報告は検収簿でよい

市教組は、東京電力福島第一原発の事故にかかわり、給食実施は慎重に行うことを要求しました。市教委は「食の安全性等については十分に配慮」として回答しました。給食食材の放射能汚染を心配する保護者からの問い合わせに、「毎日、食材の産地を校長に報告する」としたことに、負

福島の自然の教室は慎重に

福島県の福島少年自然の家で行う自然の教室について、地震や原発事故に関わり、慎重に対応するよう要求しました。

福島の自然の家は、耐震検査未実施の棟があり、12年度耐震審査を行い、15年度に耐震工事を実施する予定です。市教組は、早急に耐震工事をを行うよう強く要求しました。

更衣室ない・事務机ない・疲労の極限

交渉では、栄小の組合員から現場の様子を訴えました。地震当日1階にいて

ても怖い思いをした。子どもも職員もたいへん疲れている。病休者も出ている。風邪をひく職員も増え、じんま疹も出てきている。校舎ができるまで現場でいっしょに悩んで欲しい。

現在、図書室が仮の職員室になっており、一人一人に事務机がない。更衣室もない。現在、女性職員はトイレで更衣している。

出張に配慮が欲しい。他の2校にいる教職員はいったん栄小に戻らないと出張への足がない、等等です。

現場の声を反映して

栄小問題では、市教委は3月にプロジェクトチームを作り、週2回の会議を開き対応を検討してきました。

4月6日の教育長との懇談で、「栄小の要望は聞く」と確認したことを話し、栄小の職場の声を聞き取り対応して欲しいことを強く要求しました。交渉の場で話題に出たことはプロジェクトの検討にしっかりと反映させることを確認しました。



コーディネーターする人材配置を

栄小の児童が分散している馬宮東小と植水小には、現在、養護教諭の資格を有している学級等支援員が配置されています。カウンセラーも対応していません。しかしながら、配置された人をコーディネーターする人がいなくて困っています。栄小の職員が行っていて、本来の仕事をする時間が欲しいと嘆いています。市教組は、「管理職として対応できる職員の配置を」と要求しています。元校長が学校経営アドバイザーとして配置されています。市教委はあくまでサポートであるとしていますが、教職員の仕事が増えないよう改めて要請しました。